

# くすりのしおり

内服剤

2017年03月改訂

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

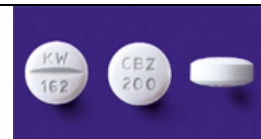
## 商品名：カルバマゼピン錠 200mg 「アメル」

主成分：カルバマゼピン (Carbamazepine)

剤形：白色～微黄白色の錠剤、直径約 9.0mm、厚さ約 4.3mm

シート記載：(表) カルバマゼピン 200mg 「アメル」 200 KW162、(裏)

Carbamazepine200mg 《AMEL》 カルバマゼピン「アメル」 200mg CBZ200



## この薬の作用と効果について

脳内の神経の過剰な興奮をしずめて、てんかん発作を抑えます。また、鎮静作用などにより過剰な気分の高まりを抑えます。顔面の三叉（さんさ）神経の異常な興奮を抑え、三叉神経痛の発作を軽減します。通常、てんかん、躁うつ病などの躁状態、三叉神経痛などの治療に用いられます。

## 次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。血液障害、房室ブロック、徐脈、ポルフィリン症
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

## 用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（：医療担当者記入）
  - ・精神運動発作、てんかんに伴う精神障害、てんかんの痙攣発作：通常、成人は1日1～2錠（主成分として200～400mg）を1～2回に分けて服用を初め、最適の効果が得られるまで〔通常1日3錠（600mg）〕徐々に増量されます。症状により1日6錠（1,200mg）まで増量されることがあります。通常、小児は年齢・症状により1日1/2～3錠（主成分として100～600mg）を何回かに分けて服用します。
  - ・躁病、躁うつ病の躁状態、統合失調症の興奮状態：通常、成人は1日1～2錠（主成分として200～400mg）を1～2回に分けて服用を始め、最適の効果が得られるまで〔通常1日3錠（600mg）〕徐々に増量されます。症状により1日6錠（1,200mg）まで増量されることがあります。
  - ・三叉神経痛：通常、成人は1日1～2錠（主成分として200～400mg）から服用を始め、通常1日3錠（600mg）までを何回かに分けて服用しますが、症状により1日4錠（800mg）まで増量されることがあります。小児は年齢・症状に応じて適宜減量されます。
- いずれの場合も必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・飲み忘れた場合は気がついた時にできるだけ早く飲んでください。ただし、次の通常飲む時間が近い場合は、忘れた分は飲まないで1回分を飛ばしてください。絶対に2回分を一度に飲んではいけません。
  - ・誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
  - ・医師の指示なしに、自分の判断で飲むのを止めないでください。てんかんに使用している場合、急に飲むのを止めるとてんかん発作が連続して起こることがあります。

## 生活上の注意

- ・飲み始めと薬の量を増した時は、眠気・吐き気・めまいなどが起こりやすいので、特に注意してください。
- ・眠気、注意力・集中力・反射運動能力などの低下などがあらわれることがありますので、車の運転や危険を伴う機械の操作などは行わないでください。
- ・眠気などが強くなることがありますので飲酒はなるべく避けてください。
- ・グレープフルーツジュースと一緒に飲むと、薬の作用が強くなる場合がありますので避けてください。
- ・セイヨウオトギリソウ（セント・ジョーンズ・ワート）を含む健康食品と一緒に飲むと、薬の作用が弱くなる場合がありますので避けてください。

## この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、眠気、めまい、ふらつき、けん怠感、運動失調（運動の調子が狂った状態）、脱力感、発疹、頭痛・頭重、立ちくらみ、口渇（喉が渇く）、血管浮腫（顔、舌、喉の腫れ）、かゆみ、光線過敏症、蕁麻疹、潮紅、血管炎、呼吸困難、リンパ節腫脹、ポルフィリン症、貧血、膵炎などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[ ]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・喉の痛み、出血傾向、貧血症状〔再生不良性貧血、無顆粒球症などの血液障害〕
- ・発熱、皮膚の発疹・水疱、眼の充血や唇・口内のあれ〔中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群、急性汎発性発疹性膿疱症、紅皮症（剥脱性皮膚炎）〕
- ・発熱、発疹、リンパ節の腫れ〔過敏症候群〕

- ・食欲不振、全身倦怠感、白目や皮膚が黄色くなる [肝機能障害、黄疸]
- ・めまい、失神、徐脈 [うっ血性心不全、房室ブロック、洞機能不全、徐脈]

**以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。**

**保管方法 その他**

- ・乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保管してください。
- ・薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。

**医療担当者記入欄**

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。